

## 博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	秋田大学	整理番号	O01
プログラム名称	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム		
プログラム責任者	小川 信明	プログラムコーディネーター	柴山 敦

### 博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

#### [総括評価]

概ね計画に沿った取組が行われ、一部で十分な成果がまだ得られていない点もあるが、本事業の目的をある程度は達成できたと評価できる。

#### [コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、レアメタルの資源学・資源開発という分野の特性を活かし、学部段階から豊富な実践・実習教育をプログラムに組み込み、海外資源フィールドワークを必修科目にするなどの取組が行われ、例えば、国際深海科学掘削計画（IODP）への参画等は、国際的な研究チームの中で学生が資源探索・開発の現場を経験する重要な活動であると評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、行政機関・資源開発系の企業からの講師によるコースワーク等により、実際に行われている資源開発の理解を通じて、自らの専門と重ねることで産学官におけるキャリアパスをイメージできる体制が整えられており評価できる。一方で、本プログラムに参加している学生の多くが留学生ということもあり、学位取得後、本国の大学や政府系の研究機関に就職するケースが多くなっている。レアメタル等の資源学・資源開発というユニークな分野でのプログラム実施ではあったが、本プログラムへの応募者数・入学者数の内訳を考慮すると、秋田大学学内を含めて、特に日本人学生を十分に惹き付けるまでには至らず、当該分野における日本国内の教育研究・人材育成の拠点としての役割が十分に果たせなかった点は、今後の大きな課題である。これまで行ってきた本プログラムによる取組の紹介のみならず、秋田大学の資源学・資源開発に関する研究力の高さや研究成果等を具体的に紹介するなど、本プログラムを多くの学生を惹き付ける博士課程とするためのより一層の努力が望まれる。この点については、本プログラムの担当者の努力だけでは解決できない課題であり、これまでの大学全体としての取組が不十分であったと言える。今後の改善が望まれる。

事業の定着・発展については、全科目を英語で実施する国際資源学研究科が新設されるなど、秋田大学における教育研究の高度化、国際化に大きく寄与することが期待されるが、本プログラムを多くの学生を惹き付ける博士課程とするための一層の努力とともに、修了後、自国に帰ることが多い留学生との発展的で継続的なネットワークの構築が望まれる。